

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	愛光保育園	施設 種別	保育所 (旧体系：)
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

平成 26 年 1 月 16 日

総 評	愛光保育園は、1908年にキリスト教会の設立と共に幼児教育をスタートさせ、1948年に当時の木津町の要請により社会福祉法人愛光福祉会・愛光保育園に改名しました。キリスト教保育を軸として歩んできた京都で一番の歴史を誇る、卒園生が2,500名以上にもなる保育園です。 創立の理念“愛せよ光の子となれ”を実践する為に、保育理念として「友だちと楽しく遊び、助け合って生活する」を掲げ、保育者には「子どもの笑顔を消さないで」、保護者には「ゆっくり歩こう」、子どもには「元気に遊ぼうね」を保育の目標として、日々の保育を実践しています。 児童憲章、保育倫理綱領宣言を園のしおりに記載し、子どもの権利を第一義と考え、その生活を守り育成する環境を整え、園運営に努めています。育友会（保護者会）や同窓会の活動が活発であり、保育園と連携しながら「夏のつどい」や「クリスマス礼拝」などの行事が行われており、保育園が地域と共に積み上げた確実な歩みがあります。よりよい保護者との協力関係を築きながら、地域の子どもの育ちや子育て家庭を支えています。
特に良かった点(※)	・毎朝の職員ミーティングで、日々の子どもの様子や伝達事項を確認し、情報を共有しています。子どもの状態に応じて細やかな対応を心がけており、安心して子どもが生活できる環境を整備しています。 ・法人の長い歴史の中で培われてきた地域との繋がりががあります。その活動として育友会（保護者会）や同窓会があり、「夏のつどい」や「運動会」などを通して、保育園と共に行事に取り組んでいます。その内容は、育友会・同窓会が発行する情報誌などで地域の方も知ることが出来ます。 ・1989年より「日本国際飢餓対策機構里親部世界里親会」に加入し、世界の人々とのつながりを大切にしたり、子どもたちの奉仕する心を奨励しています。
特に改善が望まれる点(※)	・保育課程は、その見直しや評価を組織的に行い、園全体で理解が深まるよう取り組み、園の基本となる保育計画として利用者へ周知されるとより良いでしょう。 ・職員の就業状況を把握出来るよう、それらの内容を具体的なプランとして整備されるとより良いでしょう。

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】

評価結果対比シート

受診施設名	愛光保育園
施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人京都府保育協会
訪問調査日	平成26年1月16日

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-(1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-(2) 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	B	A
I-2 計画の策定	I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。（非該当）		
	I-2-(2) 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている。	B	A
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	A	A
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	C	B
		⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者に周知されている。	B	B
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	B	B
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	B	B
	I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	B	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	B	A

[自由記述欄]

・保育理念、保育目標は、園のパンフレットや園内に明示されています。また、保護者へ配布する「えんのしおり」にも明文化されており、その周知に努めています。

・保育課程が編成されており、それに基づき年間指導計画、月案、週案、個人月案を作成しています。毎月の全体会議で、それらの評価・反省を実施し、次の計画に反映させています。

・保育課程は、社会の動向や保護者の意向、地域のニーズの変化への対応等を考慮して編成されています。今後は、その見直しや評価を組織的にを行い、園全体で理解が深まるよう取り組み、園の基本となる保育計画として利用者へ周知されるとより良いでしょう。

・園長と主任は協働して長年培ってきたキリスト教保育の理念に沿った保育が実践されるよう、月一度開かれる全体職員会議などに出席して職員と連携を密に行い、保育の質の向上に向けて継続的に取り組んでいます。

・管理者は、業務の効率化を図るとともに職員の働きやすい環境整備などに取り組み、職員間で自発的な協力体制が構築されるよう努めています。

Ⅱ 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅱ－１ 経営状況の把握	Ⅱ－１－（１） 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	C	A
Ⅱ－２ 人材の確保・養成	Ⅱ－２－（１） 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	B	B
		② 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B	B
	Ⅱ－２－（２） 職員の就業状況に配慮がなされている。	② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	B	A
		① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	A
	Ⅱ－２－（３） 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	A	A
		① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A
		② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A
Ⅱ－３ 地域との交流と連携	Ⅱ－３－（１） 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	B	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	B	A
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	A
	Ⅱ－３－（２） 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A

[自由記述欄]

・園長は地元園長会に加入し、事業経営をとりまく環境や法人全体で地域の保育に関するニーズを、また、社会福祉事業全体の動向の把握に努めており、運営母体の福祉会が来年度新園を開設するにあたって積極的に関与しています。

・管理者は職員の就業状況を把握できるよう定期的に話し合いの場を設けたり、働きやすい環境づくりを職員との協議の上で進めています。今後は、それらの内容を具体的なプランとして整備されるとより良いでしょう。

・管理者は職員の福利厚生や健康維持については常に留意し、悩みなどがある職員は園長や主任に相談できる体制を整備し的確に対応しています。

・開園以来、地域との交流と連携を大切にし、長い歴史の中でその関係が確立されています。育友会（保護者会）や、園の卒園児の保護者等で組織されている同窓会からの働きかけに合わせた行事なども行っています。また、日頃から園児と小学校に訪問し、交流を持っています



評価分類	評価項目		評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ－１ 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ－１－（１） 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	①	利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
	Ⅲ－１－（２） 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	①	苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
		②	利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
Ⅲ－２ サービスの質の確保	Ⅲ－２－（１） 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	①	定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	A	A
		②	定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	A	A
	Ⅲ－２－（２） サービス実施の記録が適切に行われている。	①	入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	A	A
		②	利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	A
		③	利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
Ⅲ－３ サービスの開始・継続	Ⅲ－３－（１） サービス提供の開始が適切に行われている。	①	利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	B	A
		②	保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	A	A
	Ⅲ－３－（２） サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	①	転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	B	B

[自由記述欄]					
・ プライバシー保護についてのマニュアルや、苦情解決の仕組みが整備されています。苦情解決の第三者委員として「福祉事業の苦情処理ネットワーク」に加入しており、その内容は、園内掲示やパンフレットに明記し周知しています。 ・ 質の向上のために第三者評価を受診（２回目）し、園全体で事業内容の改善に努めています。また、自己評価を行い評価結果と課題等を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを実施しています。 ・ 入園の際に、子どもの身体状況や生活状況等を共通の様式に記録し、その内容は定期的に見直しを行なっています。また、ケース会議を通して、子どもの発達状況などを職員間で共有しています。 ・ 利用希望者に対して、ホームページで施設情報を提供したり、施設見学者にはパンフレットを配布しています。また、入園の際は「えんのしおり」をもとに、わかりやすく保育内容を説明し、保育上の配慮事項や園の諸費等については、書面で同意を得ています。 ・ 卒園後も同窓会の活動を通して、継続して園との関わりをもっていますが、転園の際には個人情報に配慮された上で引継ぎ文書を定めるとなおります。					

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	A	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	A	A
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	B	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	B	A
		④ 身近な自然や社会とかがわれるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	B	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している	A	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	A	A

[自由記述欄]

- ・健康管理に関するマニュアルがあります。登降園時の記録簿を利用し、職員間で情報を共有しています。
- ・園児が栽培したトマトやオクラなどの食材をクッキング保育などで利用し、栽培から調理まで体験出来るよう工夫しています。
- ・園児の誕生会に給食試食会を実施し、その際にきょうだいで同じ献立にならないよう配慮しています。また、「給食だより」を毎月保護者に配布しています。
- ・アレルギー疾患を持つ子どもに対しては、医師の診断をもとに代替食を提供しています。誤食が無いよう朝の会議で確認したり、専用の食器を使い、名前を書くなどの配慮を行っています。
- ・午睡中のSIDSの確認は、0歳児は5分ごと、1～3歳児は10分ごとに年齢に合わせた間隔時間で記録を取っています。
- ・遊び場・食事の場・眠る場は一緒になっていますが、各部屋の中で活動に応じた空間を工夫し、保育環境の整備に努めています。
- ・各部屋に子どもの興味や発達に即した玩具や本があり、自発的に活動できる環境を整備しています。
- ・生活発表会で合奏を披露するなど、興味や関心に応じて楽器にも親しんでいます。



評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅳ－２ 子育て支援	Ⅳ－２－（１） 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	A	A
	Ⅳ－２－（２）一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	非該当	非該当

[自由記述欄]				
・保護者との日常の情報交換を連絡帳や登降時の記録簿で行うとともに、個人懇談やクラス懇談会を行っています。また、保育参観や保育参加など共通理解の機会も設けています。 ・虐待に関しては、早期発見、早期対応に関係機関との連携のもと適切に行っています。				

Ⅳ－３ 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅳ－３ 安全・事故防止	（１）安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	B	B
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	B	B
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	B	B
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	B
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	A

[自由記述欄]				
・衛生管理マニュアル、食中毒に対するマニュアルも整備し対応していますが、定期的なマニュアル見直しや研修の見直しを望みます。 ・事故や火災発生時のマニュアルが整備されています。今後は、警察や消防署など関係機関に働きかけて研修を行い、発生時における対応方法を職員間で検討・共有することが望まれます。 ・電気錠・４台の防犯カメラによる画像記録・緊急１１０番システム・緊急報知機などを設置し、不審者侵入防止の対応に取り組んでいます。				